

フィリピンの経済成長

信金中金月報掲載論文編集委員

永田 邦和

(長野県立大学 グローバルマネジメント学部教授)

近年の日本では、夏になると、非常に暑い日が続きます。最近の挨拶は、「今日も暑いですね」で始まることが増えました。筆者は、6月にフィリピンのマニラに滞在しており、帰国直後は「日本や長野は涼しい」と感じていましたが、最近、マニラよりも暑く感じています。長野県は標高が高いので、空気が澄んでいます。そのため、日差しが強く、日の当たる所にいると、暑く感じます。

筆者がマニラに行ったのは、海外短期留学の学生の引率でした。勤務先の長野県立大学グローバルマネジメント学部では、2～3週間の海外短期留学が必須になっています。留学先は、アメリカ、イギリス、スウェーデン、ニュージーランド、フィリピンの5カ国6大学であり、どれか一つを学生は選びます。筆者が引率したのは、フィリピンのアテネオ・デ・マニラ大学（アテネオ大学）です。アテネオ大学は、1859年にイエズス会によって設立された歴史と伝統のある私立大学です。キャンパスはとても広く、学部や大学院のみならず、幼稚園や小中学校、高等学校もあります。宿泊した学内の寮からキャンパスの外に出るまでに、歩いて10分程度かかりました。筆者も学生と一緒に3週間滞在しました。

2019年にもアテネオ大学に引率しましたが、その時と比べて、フィリピンも大きく変わりました。一つの変化が、大型のショッピングモールが次々に開業していることです。2019年当時も、大きなショッピングモールがありましたが、同規模のショッピングモールが多数開業していました。ショッピングモールの規模は、日本では見られないような広さであり、高級ブランド店や高級レストランが多数出店していました。

大型のショッピングモールが開業しているのは、BPO（Business Process Outsourcing）産業等のサービス業を中心に経済が成長し、所得水準が向上しているからです。BPOの例としては、コールセンター等のカスタマーサービスの外部委託があります。フィリピンでは、流ちょうに英語を話せる人が多いので、英語圏の大手企業はコールセンター等をフィリピンに設立したり、フィリピンの企業に委託したりしています。アメリカ人が、アメリカ企業のコールセンターに電話をすると、アメリカではなく、フィリピンのコールセンターに電話がつながり、フィリピン人のスタッフに対応し

てもらうことになります。BPO産業以外でも、金融業や情報通信業等のサービス業も成長しています。それらの業種の就業者の所得水準が向上し、消費が増え、大型のショッピングモールが開業しています。英語を流暢に話せると英語圏で仕事をすることができますので、より高い給与を求めて、海外で仕事をするフィリピン人もいます。彼等はOFW (Overseas Filipino Worker) と呼ばれていますが、彼等からのフィリピン国内の家族への送金も所得や消費の増加につながっています。

所得水準の向上は、自動車の購入を増やします。自動車を購入した人が、副業として、ライドシェアのドライバーをすることも増えています。フィリピン等の東南アジアでは、Grabと呼ばれる配車アプリが普及しています。観光客はタクシーの代わりにGrabを使っています。我々はマニラのニノイ・アキノ国際空港からアテネオ大学にバスで移動しました。Grabで自動車を手配したり、家族が自動車で迎えに来たりしているので、空港の外が非常に混雑していました。以前は何もなかった場所に、Grab専用の乗降場所ができ、その利用者のためのフードコートもありました。

目覚ましい経済成長を感じる一方で、貧困問題や所得格差を目の当たりにすることもありました。都市部を自動車やバスで通過すれば、高層ビルのすぐ近くで、貧しい人達の住まいを目にします。何回か、お金を求める子供達に声をかけられたこともあります。アテネオ大学は、外部の機関と連携して、貧困層への支援を行っています。あるコミュニティに住宅や病院等の施設を提供し、医療や教育のみならず、経済的に自立して生活できるように技術を教えるような支援を行っています。最終的には、そのコミュニティが自立的に存続できることを目指しています。ある女性は、彼女の子供が高等教育を受けられることができ、小学校の教員の職に就いたことを嬉しそうに話していました。

アテネオ大学では、起業志望の学生や在学中に起業する学生も増えてきており、そのような学生を教育・支援する取り組みも行われています。学生に実際の経営を経験させるために、学内に期間限定で飲食店や雑貨店を出店することを認めています。学生は起業やイノベーションの講義を通じて、自分のアイデアを商品化したり、起業による社会貢献（起業による貧困問題の解決等）を考えたりしています。最近、学生の起業を教育・支援している日本の大学も増えてきており、本学も起業家を育てる教育を行っていますので、アテネオ大学の取り組みは非常に参考になりました。

久しぶりにフィリピンに行ったことで、筆者も、経済が成長している国の活気や勢いを感じることができました。異なる環境で過ごすとは疲れるものですが、今回は、元気をもらって帰ってきました。フィリピンで感じたことを教育や研究等に活かしていきたいと思います。